


 作文部門
受賞者
AWARD WINNER

静岡県町村会長賞

しずくが教えてくれた事

三年 中本 怜那

わたしは、8才のたん生日プレゼントに、ハムスターを買ってもらいました。ジャンガリアンのオスで、名前は、しずくにしました。そのころのわたしは、お母さんに「動物を飼いたい。」と、いつも言っていました。ペットと飼い主の物語をたくさん読んで、わたしもペットがエサを食べる様子を観察したり、ふわふわな毛をなでたりしたいと思ったからです。

しずくは、床材の中にもぐるのがすきだけど、回し車は、すきじゃなかったです。

しずくの、一番かわいくてすきだった所は、エサをカリカリと、少しずつ食べる所です。

ところが、数か月後、しずくの歩き方が不自然なことに気づきました。後ろ足が痛いのか、足をかばうように、ひよこひよここと歩くようになったのです。食べる量が減ってきて、体重も減ってしまいました。

そこで、動物病院へつれて行きました。すると、

「エサは、種類だけじゃなくて、ハムスター用のミックスフードをあげてください。」

と、言われたので、その通りしてみました。しかしなかなか食よくはもどらずに、どんどんやせていってしまいました。

そこでもう一ど小動物専門の病院で診察してもらいました。そこでレントゲンを取ってもらいました。すると、しゅようが見つかりました。じゅういさんが、

「しゅようがあるし、ほねがスカスカだから、カルシウム材を朝と夜の2回あげてね。」と言われたのでカルシウム材を毎日しっかりとあげました。しかし、それからしばらくした朝に、しずくがケージの中で倒れていました。びっくりして、すぐくかなしかったです。

それからわたしは、しずくのことばかり考えるようになりました。わたしは、すきな食べ物などをあげすぎると病気になることを学びました。だからわたしはじゅういしになりたいと思いました。じゅういしになって動物をたすけたいと思ったからです。なのでわたしはこれから、動物のべん強をいっぱいしてじゅういしになって、一びきでも多く動物を助けたいです。